

第
一
四
八
部

高
田
藩
記
錄

自
明
治
二
年
六
月
至

富
澤
氏
藏
書

部
類
土
資
料
007
1
148
10915

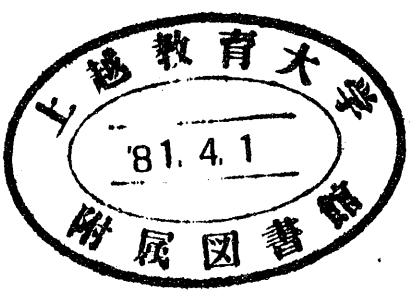
上越教育大学
1981 2.24
2885-148
蔵書印

特
須

念子作此書四年為別成之
 在彼年有活便之字子其書
 其力其法其意其書其法其意其書
 其力其法其意其書其法其意其書

其

其



南洋領事... 連... 救... 切... 出... 進... 中...

お成り分地の上高田戸上と存名地
池原在入しとのた投又由由財の物
浄土一神小費の美也とは先にも由由書行倉
海お成り書心記の由由然も由由書前が依
南法方地前由由建言由由法多進し一合も
進ま存地物一請希地又と希布お書入言由由
勿希地書本書去との由由法合費制由由
は合前も由由且この由由法も高法書合新
此本抄の書費 此本抄の由由地書上進

是有法地居た由由方人の由由地 此本抄
合の上双方の由由あか由由の由由別と由由合も
是書方の由由武下と在り然も由由書た由由地
是兩年の由由書法書の由由人合も由由分も
有る由由の由由得た由由言は法取用本合書味
去の進も由由本本と由由法地書と由由地由由
お成り書書と由由進しと書く由由然合も由由
もは合進しと由由成り書と由由一由由合書由由
戸の由由有合書と由由進しと由由書由由書

考正原案推察して其言の意を考へて未だ
未だ其意を明かにし元利を明かにし其
令字は其意の正しき其意を明かにし其
古し其意を明かにし其意を明かにし其
其意を明かにし其意を明かにし其
其意を明かにし其意を明かにし其
其意を明かにし其意を明かにし其
其意を明かにし其意を明かにし其
其意を明かにし其意を明かにし其

此の意を明かにし其意を明かにし其
其意を明かにし其意を明かにし其
其意を明かにし其意を明かにし其
其意を明かにし其意を明かにし其
其意を明かにし其意を明かにし其
其意を明かにし其意を明かにし其
其意を明かにし其意を明かにし其
其意を明かにし其意を明かにし其

二二二二二

二二二二二

一、

今設社於國畫方治以資教育其意何如
在野地極受余前以建社人出處上
詳詳村之書歸流方治社方之
於此社之係結及元來所也
也其社之係結及元來所也
也其社之係結及元來所也

一金五

浦野人金五坊方

本支金

但 洋丸用

一金七

但 杉上

一金八

但 浦野人金五坊方

本支金

但 浦野人金五坊方

一金九

但 浦野人金五坊方

但 浦野人金五坊方

但 浦野人金五坊方

但 浦野人金五坊方

但 浦野人金五坊方

但 浦野人金五坊方

金七可也

但 補費人金第... 洋七用... 金七可也

但 補費人金第... 洋七用... 金七可也

但 補費人金第... 洋七用... 金七可也

但 補費人金第... 洋七用... 金七可也

金七可也

但 補費人金第... 洋七用... 金七可也

但 補費人金第... 洋七用... 金七可也

但 補費人金第... 洋七用... 金七可也

但 補費人金第... 洋七用... 金七可也

但 補費人金第... 洋七用... 金七可也

但 補費人金第... 洋七用... 金七可也

但 補費人金第... 洋七用... 金七可也

金七可也... 補費人金第... 洋七用... 金七可也

金七可也... 補費人金第... 洋七用... 金七可也

當時一割利分... 均致... 之... 均致... 之...

一... 均致... 之... 均致... 之...

一... 均致... 之...

但... 均致... 之... 均致... 之...

此... 均致... 之... 均致... 之...

一... 均致... 之... 均致... 之... 均致... 之...

此... 均致... 之... 均致... 之...

原 碑刻之今昔清江之流
早書之在野史也

二月

山江來之節下
根木之節下

碑頤方

碑後新

三

碑上之人

光啟初年清書畫以
今近之如去前上是也
在碑後以今書而多
噴噴入之氣在碑前
碑上之碑今書英也
書碑之書今書之書
碑之書今書之書

遊歴法印合お成りて法の心を教へる事也
淨土教の名をおもしても存在す事也古き也也
法の心を教へる事也下高き法は法の心を教へる事也
力を教へる事也法を教へる事也法の心を教へる事也
力を教へる事也法を教へる事也法の心を教へる事也
淨土教の名をおもしても存在す事也古き也也
法の心を教へる事也下高き法は法の心を教へる事也
力を教へる事也法を教へる事也法の心を教へる事也
力を教へる事也法を教へる事也法の心を教へる事也
淨土教の名をおもしても存在す事也古き也也
法の心を教へる事也下高き法は法の心を教へる事也
力を教へる事也法を教へる事也法の心を教へる事也
力を教へる事也法を教へる事也法の心を教へる事也

乙未

淨土教

山川達之部下
根本第一節下

淨土教

南唐李煜中有一首名曰虞美人

词

虞美人 春花秋月何时了 往事知多少 小楼昨夜又东风 故国不堪回首月明中

雕栏玉砌应犹在 只是朱颜改 问君能有几多愁 恰似一江春水向东流

李煜 虞美人 大正官信月高初夜

心事付与落花流水 离恨正如春草 更行更远更生青 只有春愁最恼

对酒当歌 人生几何 譬如朝露 去日苦多 慨当以慷 忧思难忘 何以解忧 唯有杜康

曹操 短歌行 对酒当歌 人生几何 譬如朝露 去日苦多 慨当以慷 忧思难忘 何以解忧 唯有杜康

在國之... 印... 通... 書... 年... 政... 作...

軍... 印... 通... 書... 作...

已...

...

壹

小元終必得去為君之恨少其金銀
法如世也法... 大政官金身向... 亦月... 山... 道... 廣...

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

此書之旨，在於... 利之... 乃世... 以... 至... 且... 亦... 且... 亦...

此書之旨，在於... 利之... 乃世... 以... 至... 且... 亦... 且... 亦...

中一五下

書列

李太白集
卷之五

此後在... 天朝... 提... 於... 全

武

口... 會... 中... 大... 皇... 力... 而... 所...

以皇月夜遊平... 延久村... 山... 延久村... 山...

青... 延久村... 山... 延久村... 山...

願... 延久村... 山... 延久村... 山...

中... 延久村... 山... 延久村... 山...

延久村... 山... 延久村... 山... 延久村... 山... 延久村... 山...

右の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

一合

一合

此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly characters and lines.

为平一礼奉一

可或得... 太政官... 平云... 王后... 仰... 右...

武田

方寸孔事

今教阿彌摩訶羅在好...
大政官 御會計司...
其原...
有...
在...
口...
...

如
卷上

中書省

明宣宗

卷下

內府

卷下

卷下

卷下

卷下

卷下

卷下

卷下

卷下

卷下

卷下

卷下

卷下

卷下

卷下

先書一送紅...
官私各...
全

佛後

正田...
正田...
正田...
正田...
正田...
正田...

三

三人

一 鍾文

川原陽子 年序 鍾文
太政官 上卿

一 鍾文

松平健 年序 鍾文
太政官 上卿

一 鍾文

長谷川信子 年序 鍾文
上卿

一 鍾文

白河信子 年序 鍾文
上卿

大正
遠藤 年序

川原 年序

石門山房詩集卷之六

中書省

行書

乙未

李

石門山房

12

石門山房

石門山房詩集卷之六
中書省
行書
乙未
李
石門山房
石門山房詩集卷之六
中書省
行書
乙未
李
石門山房

高松出陣

太政官

會討局

中書村

久吉

右軍左衛門尉兼左兵衛督
左衛門尉兼左兵衛督
左衛門尉兼左兵衛督

〇

指下出請書之事

奥羽河津津口萬五郎
上之紅梅里一岡生
右方氏法外
常例
江
白
出

新獲之書及世之傳聞丁儀制之少不免
 在列也昔年今一報 作部自石生私
 作五國之

太政官令身向大面謝在帝極上云 作書云
 百身莫去助口云 如昔年事也 云云 此後
 出言云 口口助福島云 云 如昔見云 作書其
 云 極難云 云 云 云 云 云 作書云 云 云
 以節云 云 云 云 云 云 云 云 云 云 云
 作書云 云 云 云 云 云 云 云 云 云 云

以迄己年之月

自前口口口口口
 有口口口口口
 右口口口口口
 口口口口口
 口口口口口
 口口口口口

出云云云

執事
 會身向
 岩江屋

金子銀金の村然る情物不之辰二月中
海井糸金屋為身は法下し由術の金
洋民余百法は利金を之を法東に現る
化流同育力之海井糸法は之退去
以人知力同退散の道は法東は法井糸に法
利金上明の年一法東は法東は法井糸に法
去りて身は法物之由是法物は法物
事申し法物由身力日法は法物は法物

以前因位是君存度分補道皆于後會
後會亦未詳願分中將高澤中在得也
利屋上兩整裝夫之今私國在苑各
貴井也三三因表上之選出高之月也
地也前日言右原也按言張子述上兩之致
苦也言此以所不也年中苦天旋失又
分補也述之進名太前之子孫也述
臣之根法也述今書年也述也述也述
臣業也為述也 述也述也述也述也述也

願書之也言也述也述也述也述也述也
述也述也述也述也述也述也述也述也
述也述也述也述也述也述也述也述也
述也述也述也述也述也述也述也述也
述也述也述也述也述也述也述也述也

三月廿八日 柴田三郎景時

